

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000074		
法人名	社会福祉法人 あすか福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム 和庵		
所在地	長崎県対馬市厳原町国分1428番地1		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町村受理日	令和3年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あすか福祉会の企業理念である「尊厳」を基にご入居者様がその人らしい生活ができるように、ご入居者様の希望を重要視し、ケアに反映するようにしています。また、家族交流、地域交流を積極的に実施する事により、ご入居者様が普段の生活と変わらず、また役割などを持って頂く事により、認知症の進行を軽減できるようなケアを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人理念である「尊厳」を保持することを目指している。職員は、入居者がどう暮らしたいのか、何をしてほしいのか等、本人の言葉や仕草を見落とすことなく聴取し、その人らしい生活を送れるよう尊厳を支えるケアに取り組んでいる。職員は入居者の趣味や習慣を継続する支援の他、改めて嗜好調査を行い、食の満足度向上に努めており、その過程はアセスメントや記録物からも確認できる。入居者の生き生きとした表情を撮影し、暮らしぶりを家族に伝える事業所だよりは、新型コロナ禍にあり面会や外出を制限している家族や本人を取り巻く人たちに安心感をもたらしている。各階の管理者は、人員不足の状況では入居者の思いに沿ったケアはできないとの考えを法人本部に伝え職員を確保しており、職員の家庭環境に配慮し、希望休や連続休暇取得等働きやすい体制づくりに努めている。入居者と職員の生き生きとした表情と穏やかな生活の様子から理念の具現化が窺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」を基に、ご入居者さまがその人らしい生活ができる事を目標としており、職員と理念について介護に具現化できるように共有できている。	法人理念である「尊厳」を保持することを目指し、入居者が自分の意思でその人らしい生活を送れるよう、尊厳を支えるケアに取り組んでいる。理念は事業所内に掲示しており、利用開始時に家族に説明している。職員は入居者の声に耳を傾け、思いを汲み寄り添う支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加できる時には、積極的に参加し、地域交流を深める事ができるように意識しております。職員もですが、ご入居者様が参加できる行事は工夫して参加を心がけている。	自治会に加入し、回覧板を回している。職員は地域の除草作業に参加しており、敬老の日には近隣住宅へ挨拶に伺う等地域との繋がりを深めている。入居者と一緒に地域マラソン大会を沿道で応援したり、誕生会に踊りのボランティアの訪問がある等、地域と触れ合う機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者様のご家族、見学者、入居相談の際には、個別に相談に応じているが、現状として地域に活かしているとは言えない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族や様々な職種の方に、たくさんのご意見を頂きながら、情報を共有しつつ、問題解決やサービス向上につなげていると思われる。現在はコロナの影響で資料配布のみとさせて頂いている。	今年度は新型コロナ禍により、2ヶ月に1度書面会議を行っている。議事内容は入居者と職員の状況、活動内容や事故報告等であり、議事録を構成員に送付している。要望等は特にないものの、事業所だよりや活動内容等から事業所の雰囲気良くなったとの感想を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、町の担当者の方には運営推進会議に参加してもらいながら、意見を頂いたり、定期的に情報を共有する事で関係性を築きながら、連携を図る事ができている。	行政には、運営上不明な点を尋ねたり、事業所の状況報告等行っており、担当部署職員が入居者の面会に訪れている。新型コロナ対策については最新情報がメールにて届く他、ワクチン接種の対象となる入居者と職員の人数を報告している。現在、行政主催の研修等は中止となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護スタッフには身体拘束や他にも接遇、虐待など定期的に施設内で勉強会、研修を実施する事で、意識付けを行いながら、理解を深めることができています。	身体拘束廃止の指針を整備している。身体拘束や虐待に関する研修を定期的の実施し、ユニット会議やカンファレンスで不適切なケアにならないよう話し合い、全職員が理解を深めている。職員は咄嗟に「待ってね」と発することも多いものの、入居者に理由を説明し待ってもらおうよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内において、虐待防止の研修を実施しており、管理者や介護員が勉強する機会を作ってもらっている。また、専門分野の方に講師をして頂き、動画などを利用し、分かりやすく説明して頂く事で、理解を深めることができ、虐待防止につなげることができている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について今現在活用しているご入居者様はいないが、今後必要になってくる方が出てくる可能性がある。管理者は施設内研修や施設外研修に参加しながら、知識を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明を行い、理解して頂いた上で、同意書に署名、捺印を頂いている。また、定期的に契約書や重要事項説明書の見直しなどを行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族代表の方に参加して頂き、積極的に意見を頂く事になっている。また、玄関近くの窓口にご意見箱を設置し、意見を反映しやすいように心がけている。	事業所だよりやホームページにて、入居者の日常の様子を家族に伝えている。今年度は、新型コロナ禍のため、家族との面会は自粛となっているが、電話や玄関先で家族の要望を尋ねている。職員は、家族が声を掛けやすい雰囲気づくりのため接遇を徹底している。家族の意見から、面会に代わる連絡手段などサービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の研修会やミーティングを開催し、スタッフからの気づきや提案を業務に反映できるようにしている。	ユニット会議や日常的に、職員は意見や提案している。管理者は、職員の提案内容に応じ、法人本部へ相談し解決している。管理者は、年2回自己評価時の面談の他、細目に職員の話に耳を傾けている。メリハリのある勤務実行のため、シフトや希望休の反映、業務内容の業務内容の見直しを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上には力を入れており、働きやすい職場を目標に、具体的に、職員の家庭環境に合わせた勤務体制、有休取得率の向上、スキルアップのための研修など力を入れ、職員の定着率が向上できるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者から始めた、職員は多数おり、基本や介護に関する心構えを大事にしながら、丁寧に教える事を基本としながら、働きながら、トレーニングができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が多いとは言えないが、市が開催する研修などに参加をする事により、他事業所との交流する機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、事前訪問を行い、ご本人のお困りごとや不安に感じている事をお聞きし、できる限り気持ちに寄り添う事ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約から、入居までの間に可能な限り、本人、ご家族と面談し、要望や情報を収集する事で、ケアに反映できることを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全項目の付けたしであるが、居宅ケアマネから情報を頂いたり、居宅ケアマネからの情報を頂いたり、居宅ケアマネ、ご本人、施設ケアマネでバトンタッチを兼ねて、和やかな雰囲気が必要な支援を提供させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症という病気を職員は理解しながら、その方が持っている能力をなるべく活かせるようなケアを心がけており、できることはなるべくやって頂きながら、雰囲気作りにも心掛ける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時に日頃の様子などをお伝えし、情報を共有し、本人、スタッフ、ご家族の関係性を築きながら、支援する体制を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住環境はなるべく、以前に住んでいた環境に近づけるように工夫しており、コロナが流行る前はご本人が住んでいた土地を訪問したりしている。	利用開始時に本人・家族から生活歴や馴染み、生活習慣などの情報を聴取している。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、外出・面会は自粛中であるが、玄関のガラス越しに家族や知人の面会が行っている。職員が代筆し、家族や知人へ手紙や年賀状を書いたり、電話で話すなど、関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者によって認知症の程度はさまざまであり、ADLなどが違う事理解してもらいながら、職員が間に入りながら、うまく交流できるように心がけているが、難しい場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関や他施設に入所されても定期的に訪問する事を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴を理解し、日課や趣味、嗜好品等もアセスメントしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合にはご家族、サービス提供所のスタッフ・ケアマネから情報を頂いている。	職員は、入居者の思いを細かく聴取できるよう、生活歴や思いの背景を理解している。また、入居者と家事作業や手芸、将棋など楽しく過ごす時間を設けることで信頼関係が増し、思いや意向の把握に繋がっている。得た情報は、申し送りノートや個人記録に記入し、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に時間をかけて、可能な限り情報を収集し、今までの生活に近づける事を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントは勿論であるが、日々の体調・心身の状況は変化する為、スタッフ間での記録や申し送りを密に行い、気づきを大切に情報共有を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望は可能な限り大事にし、計画につなげていく。ご家族の希望も本人の希望に相違なければ大事にしていき、日々の面会などで、情報を収集し、介護計画にいかせるようにしている。	入居前のサマリーや生活歴を基に、従来の生活に沿った計画を立てている。ケアチェック表で本人の思いやできること等を把握し、計画案を家族に説明し要望等を計画に反映している。ユニット会議で職員の意見を聞き、ADLや日常活動の好みに変化が見られたら計画を見直している。ただし、個別記録から計画の実践状況が確認できない。	本人がより良く暮らすため、現状に即した介護計画の作成に活かせるよう、計画の実践状況がわかるような記録等、仕組みづくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、細かい所も記録するようにしています。定期的に会議を開催し、気づき等を共有する事にしている。必要であれば今後の支援に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、本人ニーズに応えられる事を心掛けており、本人状態や気持ちの変化に対応出来る事を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在はコロナ禍で難しい現状ではあるが、施設内での生活が充実できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向を大事にしっかりとかかりつけ医・訪問看護との連携を図りながら、適切な医療を受ける事ができている。	かかりつけ医を継続しており、往診はなく、職員が通院支援を行っている。現在は新型コロナ禍にて薬の受け取りのみも可能となっている。職員は家族に受診結果と併せて本人の近況を伝えている。急変時は訪問看護に指示を仰ぎ、対応することとしており、眼や皮膚等些細な変化に気づいたら職員同士で相談し、早めの受診を心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との間に連絡ノートを作成し、情報が共有できるようにしており、24時間連絡体制をとっており、必要時には相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時はしっかりとケアパスを作成し情報共有ができるようにしており、入院中も訪問したり、電話連絡したりして状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については書類などで説明はしているが、現状としては看取りまではできていないのが現状である。	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に家族に説明し同意を得ている。現状、往診可能な主治医と看護職員が不在のため、医療行為を伴う看取り支援は行わないこととしている。状態変化に応じて、主治医と家族と話し合い、他施設への移行等できる限りの支援に努めている。今後、老衰による看取り支援については検討している。	重度化した場合の同意書はあるものの、終末期の対応や治療について、本人・家族の意思を確認できる方法の検討が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、定期的に緊急時の対応を研修しており、実際にシミュレーションをしたり、訪問看護や消防署職員に指導してもらいながら、緊急時に対応できるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に消防訓練を実施し、そのうちの1回は消防署員に立ち合いをしてもらっている。	年2回昼夜想定で消防訓練を実施しており、内一回は消防署立会いの総合訓練である。火を出さないよう毎日火元のチェックを行っている。自然災害時の避難場所については決まっており、大雨の際は2階ユニットに避難している。非常持ち出し品も整備している。ただし、避難訓練への地域からの参加はない。	職員だけの避難誘導には限界があり、地域との連携体制を築くことが望まれる。有事の際は法人近隣事業所職員の応援はあるが、近隣住民や地域消防分団への訓練参加の呼び掛け等工夫・検討に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格が尊重できるように敬語を使い、敬う言葉かけをスタッフで共有し、笑顔で対応できるように心がけて取り組んでいる。	職員は、入居者の自身でいたいという気持ちを大切にし、本人の自尊心を損ねないよう耳元で言葉掛けを行っている。特にトイレや入浴の介助など、羞恥心に関わる支援では、細やかな配慮に努めている。個人情報事務所で管理し、入居者の写真使用等の同意書も得ている。職員へ個人情報の取り扱いについて、周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人気持ちを第一にしており、日々のコミュニケーションを大事にしながら、本人が要望を伝えやすい雰囲気作り、声かけをしながら、自己決定ができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのひと、その人の趣味、嗜好、生活リズムを大事にし、なるべく本人の望むことができるように心がけており、要望が無い方に関してはその人が楽しめるようにケアする事を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みなど、個性を大事にし、なるべく本人希望にそえながら、定期的に散髪をしたり、美容院に通ったりしながら、見栄えにも可能な限り対応し、意識している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はみんなが食べれるように、入所前にきちんと調査をし、日々の食事でも残量等を確認しながら、把握できるようにしている。調理はご入居者によっては難しいので、簡単な作業や片付けなどで代用している。	入居者の嗜好や旬の食材を用いた献立づくりを行っている。月1回はパンの日を設けている。咀嚼や嚥下に合わせた盛付け、箸やスプーンなど個別に対応し、完食する喜びを味わえるよう支援している。流しソーメンやお節など季節行事に合わせた献立やバイキング形式、手づくりおやつなど、食事をみんなで楽しむ工夫が多く見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、把握に努めている。また、飲み物のレパートリーも個人の好みや体調に合わせると共に、美味しく頂けるように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、特に就寝前の口腔ケアは実施出来ており、本人の状態を確認しながら、声掛けをし、口腔清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が尿意・便意がある方ならばなるべく、トイレで自分で排泄してもらう事を心がけており、オムツ使用を極力減らせるように意識をし、研修をしている。	日中は、トイレで座位による排泄を支援している。職員は、入居者ができないことを支援し、自立での行為を見守っている。排泄状況はチェック表に記録し、個別支援に活用している。足元のふらつきの原因を解消することで、立位が可能となりパッド類の軽減に繋がる等、改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	元気な方に関しては、日々の体操や散歩を実施しており、運動を心がける事で、便秘予防につなげている。ベット上で過ごす事が多い方に関しては、腹部のマッサージ、食事などに気をつけながら、緩下剤等も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人希望にそえるように、回数や時間など対応できるようにしているが、現状はこちらの都合に合わせて頂いてる事もある。	週3回を目安に、入浴支援を行っている。拒否時は無理強いせず、入居者が安心感を持つような言葉掛けを行っている。入浴手順は、入居者の生活習慣をもとに、できないことを介助している。入浴時は、歌や会話を楽しんでいる。好みの湯温や入浴剤、ゆず湯やしょうぶ湯など、楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて、本人の自由に休んで頂いている。また、夜間の睡眠の妨げにならないように配慮、働きかけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人、処方箋などを確認し、内容は把握できており、主治医や薬剤師の方に状態を説明しながら、相談させてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご入居者様お一人お一人になるべく役割を持ってもらい、可能な限りしてもらう事で、生活の充実につながっていると思われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今現在はコロナ禍で難しい現状ではあるのですが、外出は極力控え、散歩程度にしている分、施設内での活動を活発にしている。	今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、外出支援が自粛となっているが、ホーム周辺の散歩や出身地区へ車中ドライブなど、感染症対策を取り外出支援に取り組んでいる。周辺の散歩は、車椅子の入居者も一緒に行っている。入居者が事業所にいるから外出できないと思われないう、外部との関わり方を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者の状態に合わせて、できる方であるならば極力紛失しないように、大きな金額を所持する事は控えて頂きながら、管理が難しい方に関してはご家族と相談しながら、事務所で管理したりして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠距離の家族や友人に電話を掛ける支援や手紙の宛名の確認などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をする事で、居室の清潔保持に努めている。また、定期的にご入居者様のお部屋の状態を確認しながら、整理を手伝っている。また、季節の花をテーブルに飾ったり、月度に壁の飾りつけを変えたりして、季節感を大事にし、ご入居者様にも伝わるように心がけている。	各ユニット共に共用空間は開放感があり、入居者は風船バレーや体操、歩行練習、鼻歌交じりに制作物に取り組む等自由に過ごしている。職員は入居者が季節を感じることができるよう、玄関に花を生けたり、手作りの装飾品を飾るなど工夫している。職員による毎日の清掃換気と空調管理により居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファを複数活用し、気の合う入居者同士や職員との関わり、一人一人でくつろぐ時間が持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を可能な限り居室に持ち込んで頂くように、ご家族の協力を頂きながら、本人様が、以前と変わらない環境に近づけるように配慮している。	本人・家族に尋ねながら、在宅時の生活環境に近い居室づくりを行っている。使い慣れたものや好みのものを自由に持ち込み、ベッドの配置等本人の動線に合わせている。衣服や帽子等は選びやすいよう整理整頓している。毎日の清掃換気と定期的にシーツ交換を行い快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすく、わかりやすく、安全にも配慮しながら、自立した生活が送れるように気をつけている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」を基に、ご入居者さまがその人らしい生活ができる事を目標としており、職員と理念について介護に具現化できるように共有できている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加できる時には、積極的に参加し、地域交流を深める事ができるように意識しております。職員もですが、ご入居者様が参加できる行事は工夫して参加を心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者様のご家族、見学者、入居相談の際には、個別に相談に応じているが、現状として地域に活かしているとは言えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族や様々な職種の方に、たくさんのご意見を頂きながら、情報を共有しつつ、問題解決やサービス向上につなげていると思われる。現在はコロナの影響で資料配布のみとさせて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、町の担当者の方には運営推進会議に参加してもらいながら、意見を頂いたり、定期的に情報を共有する事で関係性を築きながら、連携を図る事ができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護スタッフには身体拘束や他にも接遇、虐待など定期的に施設内で勉強会、研修を実施する事で、意識付けを行いながら、理解を深めることができている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内において、虐待防止の研修を実施しており、管理者や介護員が勉強する機会を作ってもらっている。また、専門分野の方に講師をして頂き、動画などを利用し、分かりやすく説明して頂く事で、理解を深めることができ、虐待防止につなげることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について今現在活用しているご入居者様はいないが、今後必要になってくる方が出てくる可能性がある。管理者は施設内研修や施設外研修に参加しながら、知識を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明を行い、理解して頂いた上で、同意書に署名、捺印を頂いている。また、定期的に契約書や重要事項説明書の見直しなどを行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族代表の方に参加して頂き、積極的に意見を頂く事になっている。また、玄関近くの窓口にご意見箱を設置し、意見を反映しやすいように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の研修会やミーティングを開催し、スタッフからの気づきや提案を業務に反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上には力を入れており、働きやすい職場を目標に、具体的に、職員の家庭環境に合わせた勤務体制、有休取得率の向上、スキルアップのための研修など力を入れ、職員の定着率が向上できるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者から始めた、職員は多数おり、基本や介護に関する心構えを大事にしながら、丁寧に教える事を基本としながら、働きながら、トレーニングができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が多いとは言えないが、市が開催する研修などに参加をする事により、他事業所との交流する機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、事前訪問を行い、ご本人のお困りごとや不安に感じている事をお聞きし、できる限り気持ちに寄り添う事ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約から、入居までの間に可能な限り、本人、ご家族と面談し、要望や情報を収集する事で、ケアに反映できることを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全項目の付けたしであるが、居宅ケアマネから情報を頂いたり、居宅ケアマネからの情報を頂いたり、居宅ケアマネ、ご本人、施設ケアマネでバトンタッチを兼ねて、和やかな雰囲気が必要な支援を提供させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症という病気を職員は理解しながら、その方が持っている能力をなるべく活かせるようなjケアを心がけており、できることはなるべくやって頂きながら、雰囲気作りにも心掛ける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時に日頃の様子などをお伝えし、情報を共有し、本人、スタッフ、ご家族の関係性を築きながら、支援する体制を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住環境はなるべく、以前に住んでいた環境に近づけるように工夫しており、コロナが流行る前はご本人が住んでいた土地を訪問したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様お一人、お一人の生活歴を知り、得意なこと、苦手なことをアセスメントし、それぞれのADLIに沿って、個別ケアの実践に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関や他施設に入所されても定期的に訪問する事を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴を理解し、日課や趣味、嗜好品等もアセスメントしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合にはご家族、サービス提供所のスタッフ・ケアマネから情報を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に時間をかけて、可能な限り情報を収集し、今までの生活に近づける事を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必ず、一日の1回は、お一人お一人と目を見てコミュニケーションをとり、バイタルや表情を見ながら、体調管理に努めています。またそれぞれのペースで生活して頂く事を心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の想い。「どういう風に生活したいか。」「何をしたいか。」を聴き、ご家族の想いにも寄り添い、ご本人、ご家族の想いを組み込んだ介護計画を作成するように心がけています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、細かい所も記録するようにしています。定期的に会議を開催し、気づき等を共有する事にしている。必要であれば今後の支援に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、本人ニーズに応えられる事を心掛けており、本人状態や気持ちの変化に対応出来る事を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在はコロナ禍で難しい現状ではあるが、施設内での生活が充実できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向を大事にしかかりつけ医・訪問看護との連携を図りながら、適切な医療を受ける事ができている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との間に連絡ノートを作成し、情報が共有できるようにしており、24時間連絡体制をとっており、必要時には相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時はしっかりとケアパスを作成し情報共有ができるようにしており、入院中も訪問したり、電話連絡したりして状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については書類などで説明はしているが、現状としては看取りまではできていないのが現状である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、定期的に緊急時の対応を研修しており、実際にシュミレーションをしたり、訪問看護や消防署職員に指導してもらいながら、緊急時に対応できるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に消防訓練を実施し、そのうちの1回は消防署員に立ち合いをしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格が尊重できるように敬語を使い、敬う言葉かけをスタッフで共有し、笑顔で対応できるように心がけて取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人気持ちを第一にしており、日々のコミュニケーションを大事にしながら、本人が要望を伝えやすい雰囲気作り、声かけをしながら、自己決定ができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様とのコミュニケーションを多くし、たくさんの会話から、信頼関係を築きます。ご本人がどう暮らしたいのかを知り、本人ペースで生活できるように、心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みなど、個性を大事にし、なるべく本人希望にそえながら、定期的に散髪をしたり、美容院に通ったりしながら、見栄えにも可能な限り対応し、意識している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人、お一人の好みを把握します。献立を考える際には、ご入居者様の食べたいものや旬の物を取り入れ、準備や食事作りを一緒に行ないます。味付けの際にはご入居者様に味見をして頂き、美味しい食事を提供できるように心がけます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、把握に努めている。また、飲み物のレパートリーも個人の好みや体調に合わせると共に、美味しく頂けるように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後の口腔ケアに取り組んでいます。声掛けを行い、拒否される方には無理強いせず、寝る前には必ず、口腔ケアをして頂き、口腔清潔の保持に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意がある方はすべてにおいて、トイレ誘導を実施しています。お一人、お一人の排泄パターンを調査し、把握しながら、オムツ外しに取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	元気な方に関しては、日々の体操や散歩を実施しており、運動を心がける事で、便秘予防につなげている。ベッド上で過ごす事が多い方に関しては、腹部のマッサージ、食事などに気をつけながら、緩下剤等も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週3回は入浴をして頂いています。本人の希望、入りたい時間やどのように入りたいかなど、アセスメントを行い、職員の都合ではなく、本人の想いを汲み取りながら、ゆっくり入浴できるように心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて、本人の自由に休んで頂いている。また、夜間の睡眠の妨げにならないように配慮、働きかけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人、処方箋などを確認し、内容は把握できており、主治医や薬剤師の方に状態を説明しながら、相談させてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご入居者様お一人お一人になるべく役割を持ってもらい、可能な限りしてもらおう事で、生活の充実につながっていると思われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今現在はコロナ禍で難しい現状ではあるもので、外出は極力控え、散歩程度にしている分、施設内での活動を活発にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者の状態に合わせて、できる方であるならば極力紛失しないように、大きな金額を所持する事は控えて頂きながら、管理が難しい方に関してはご家族と相談しながら、事務所で管理したりして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠距離の家族や友人に電話を掛ける支援や手紙の宛名の確認などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をする事で、居室の清潔保持に努めている。また、定期的にご入居者様のお部屋の状態を確認しながら、整理を手伝っている。また、季節の花をテーブルに飾ったり、月度に壁の飾りつけを変えたりして、季節感を大事にし、ご入居者様にも伝わるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファを複数活用し、気の合う入居者同士や職員との関わり、一人一人でくつろぐ時間が持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を可能な限り居室に持ち込んで頂くように、ご家族の協力を頂きながら、本人様が、以前と変わらない環境に近づけるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすく、わかりやすく、安全にも配慮しながら、自立した生活が送れるように気をつけている。		